

教育質向上サイクル検討結果（1次案）

サイクルのレベルと担当組織

1. 部局レベル：リベラルアーツ研究教育院全体（＝学院レベル）

担当組織：リベラルアーツ研究教育院カリキュラム実施委員会
構成員：教育担当副研究教育院長、6部会長、5WG主査（必要に応じて）

2. 部会・WGレベル（＝系・コースレベル）

担当組織：
6部会（文系、英語、第二外国語、教職、ウェルネス、日本語）
5WG（立志、教養卒論・PR実践、LS道場・LSアドバンス、博士教養、横断）
構成員（人数）：
文系26、英語12、第二外国語8、教職5、ウェルネス6、日本語4
立志6、教養卒論・PR実践5、LS道場・LSアドバンス2、博士教養4、横断5

3. 科目担当教員レベル

担当組織：個々の教員
構成員（人数）：合計61人
（内訳：文系26（人文学系10、社会科学系8、融合系8）、
英語12、第二外国語8、教職5、ウェルネス6、日本語4）

サイクル対象項目（中期計画・中期目標をもとに列挙）と対応レベル（カッコ内）

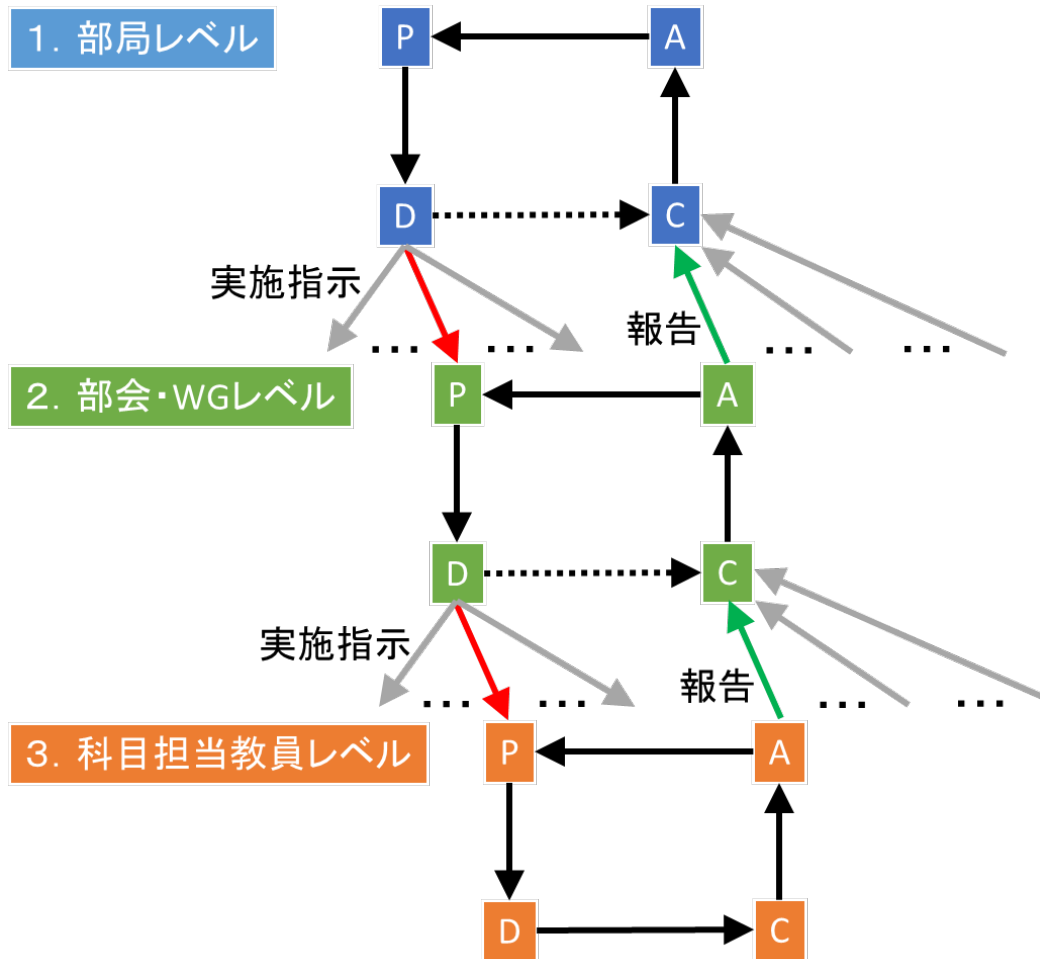
| | | |
|-----|---------------------------------------|-----------|
| 【1】 | 1-1 シラバス・チェック体制構築 | (1) |
| | 1-2 時間外学習時間増加 | (1, 2, 3) |
| | 1-3 Web教材利用増加 | (1, 2, 3) |
| | 1-4 創造性育成・能動的学習促進 | (1, 2, 3) |
| 【2】 | 2-1 海外学習支援増加 | (1, 2) |
| | 2-2 留学生支援増加 | (1, 2) |
| | 2-3 教員と学生の協働、学生同士の教えあい促進 | (1, 2, 3) |
| | 2-4 インターンシップ先拡充 | (1) |
| 【3】 | 3-1 全課程の教育プログラムの改善 | (1, 2, 3) |
| | 3-2 学修目標への意識向上 | (1, 2, 3) |
| | 3-3 キャリアパスへの意識向上 | (1, 2, 3) |
| | 3-4 オリエンテーション・支援拡充 | (1, 2) |
| 【4】 | 4-1 ナンバリング確認 | (1) |
| | 4-2 履修の柔軟性確保 | (1) |
| 【5】 | 5-① 教養コア学修科目実施 | (1, 2, 3) |
| | 5-② 学修ポートフォリオ、アカデミックアドバイザー、教学IRシステム協力 | (1) |
| 【6】 | 6-1 FD研修会参加率増加 | (1, 2, 3) |
| | 6-2 部局、部会、WG、科目群ごとのFD実施 | (1, 2) |
| | 6-3 教育の質保証・授業評価実施、FDへのフィードバック実施 | (1) |
| 【7】 | 7-1 シラバス作成実施 | (1, 2, 3) |
| | 7-3 英語による開講科目増加 | (1, 2, 3) |

サイクルの内容：各サイクル対象項目について、今後、検討、具体化

各レベルのサイクルの有機的とりまとめ方策（図参照）

基本方策：上位レベルの「D」と「C」を、それぞれ、直下のレベルの「P」と「A」に対応させる。

図：取りまとめ方策



ただし、下位レベルの「C」や「A」に上位のレベルからのフィードバックが必要な場合には、別のプロセスが必要となる。

作成予定のプロセス：

1. 懸賞活動の発信（シート 0010）
2. 授業コンテンツの発信（シート 0020）
3. 授業参加情報の報告（シート 0030）
4. 授業評価アンケートの実施
5. 授業評価アンケートの結果の活用
6. 授業参観
7. 教員による振り返り
8. 相談への対応
9. 全体管理（シート 1000）

改善活動管理者M(Manager) : 担当WG

目的W(Why?) : 学生の学習意欲の向上、優れた学生の顕在化(中期目標[3],[5])

改善活動名N(Name) : 懸賞活動の発信

0. Situation (WAGoN)

教育の内容改善、教育の量増加(学生数、コンテンツ)、教育の効率向上(費用、時間、人員等削減)、等

改善目標B(to Be)

理想Go(Goal)

懸賞活動終了後3w以内にWebに記事が掲載されている。

懸賞活動が学内外に周知され、学生の意欲向上や優れた学生の顕在化が十分である。

1. Plan (BpsM)

2. 改善行動実施Do

3. 評価 Check

・改善目標Bの達成度E:
評価者: 担当WG
例: 納期は計画通りだったが、記事の質が低かった。
・達成できなかった部分B-E:
評価者: 担当WG
例: 記事の質の確保

改善行動計画ps(plans to do)

個別行動計画pの実施結果の記録r:
記録者を明示。
計画通りに
- 実施できたc / 実施できなかったn
- 予想外に生じた事象u

個別行動計画pの実施結果の記録rの評価e
評価者: 担当WG
評価基準を明示。
(good/bad, S/A/B/C/F)

個別行動計画間の関連(順序性、並列性等)

個別行動計画

個別行動計画pの実施結果の記録r

個別行動計画pの実施結果の記録rの評価e

p1→p2→p3→p4→p5→p6→p7→
p8↓
→p9
→p10

p1
担当WGが、活動4w前までに授業担当に記事の作成とWeb掲載を指示。
p2
授業担当が、活動2w前までに執筆者に記事執筆を指示。
p3
執筆者が、受賞者に原稿の確認を依頼。
p4
受賞者が、原稿を確認し執筆者に通知。
p5
執筆者が、活動終了1w以内に原稿を授業担当に提出。
p6
授業担当が、記事を確認し活動終了2w以内にWeb担当に掲載版を提出。
p7
Web担当が、3日以内に掲載版をアップロードし授業担当に報告。
p8
授業担当が、執筆者、受講生、担当WGに報告。
p9
執筆者が、受賞者に報告。
p10
担当WGが、部局内外に周知。

r1: 担当WG
c: n: u:
r2: 授業担当
c: n: u:
r3: 執筆者
c: n: u:
r4: 執筆者
c: n: u:
r5: 授業担当者
c: n: u:
r6: 授業担当者
c: n: u:
r7: 授業担当者
c: n: u:
r8: 授業担当者
c: n: u:
r9: 執筆者
c: n: u:
r10: 担当WG
c: n: u:

評価者: 担当WG
評価基準:
期限内の実施

c:
n:
u:
その他

4. 改善活動の改善Action

・改善目標Bの改善案B':
案作成者: 担当WG
例: 懸賞活動終了後3w以内にWebに良質の記事が掲載されている。
・個別行動計画の改善案
案作成者: 担当WG
p'2
例: 授業担当が、活動2w前までに執筆者に記事執筆を指示。その際、記事の中に写真や図表を入れ、文中でそれに触れるよう指示する。
p'6
例: 授業担当が、記事を確認し活動終了2w以内にWeb担当に掲載版を提出。記事の確認の際には、別の教員にも確認を依頼する。

現実A(As Is)

懸賞活動が学内外に周知されていない。学生の意欲向上や優れた学生の顕在化が十分でない。

改善活動管理者M(Manager) : 担当WG

目的W(Why?) : 学生の学習意欲の向上、優れた学生の顕在化(中期目標[3],[5])

改善活動名N(Name) : 授業コンテンツの発信

0. Situation (WAGoN)

教育の内容改善、教育の量増加(学生数、コンテンツ)、教育の効率向上(費用、時間、人員等削減)、等

改善目標B(to Be)

理想Go(Goal)

授業コンテンツが授業終了後4w以内にWebに掲載されている。

授業コンテンツが十分に周知されている。学生の意欲向上やオリエンテーション・支援の拡充が十分である。

1. Plan (BpsM)

2. 改善行動実施Do

3. 評価 Check

・改善目標Bの達成度E:
評価者: 担当WG
・達成できなかった部分B-E:
評価者: 担当WG

改善行動計画ps(plans to do)

個別行動計画間の関連(順序性、並列性等)

p1→p2→p3→p4→p5→p6→p7

個別行動計画

p1 担当WGが、授業4w前までに授業担当に授業コンテンツの記録とWeb掲載を指示。
p2 授業担当が、授業2w前までに記録者に授業コンテンツの記録を指示。
p3 記録者が、授業において授業コンテンツを記録、授業終了後1w以内に、授業担当に授業コンテンツの原稿の確認を依頼。
p4 授業担当が、授業終了後2w以内に授業コンテンツの原稿を確認しWeb担当に授業コンテンツの掲載版を提出。
p5 Web担当が、3日以内に授業コンテンツの掲載版をアップロードし授業担当に報告。
p6 授業担当が、受講生、担当WGに報告。
p7 担当WGが、部局内外に周知。

個別行動計画pの実施結果の記録r

r1: 担当WG
c: n: u:
r2: 授業担当
c: n: u:
r3: 授業担当
c: n: u:
r4: 授業担当
c: n: u:
r5: 授業担当
c: n: u:
r6: 授業担当
c: n: u:
r7: 担当WG
c: n: u:

個別行動計画pの実施結果の記録rの評価e

評価者: 担当WG
評価基準:
期限内の実施

c:
n:
u:
その他

4. 改善活動の改善Action

・改善目標Bの改善案B':
案作成者: 担当WG
・個別行動計画の改善案:
案作成者: 担当WG

現実A(As Is)

授業コンテンツが十分に周知されていない。学生の意欲向上やオリエンテーション・支援の拡充が十分でない。

改善活動管理者M(Manager) : 担当WG

目的W(Why?) : 教育プログラムの改善、学修支援拡充(中期目標【3-1】、【3-4】)

改善活動名N(Name) : 授業参加情報の報告

教育の内容改善、教育の量増加(学生数、コンテンツ)、教育の効率向上(費用、時間、人員等削減)、等

0. Situation (WAGoN)

理想Go(Goal)

必修科目群の受講生の授業参加情報が所属系に報告されている。学修支援が十分に拡充されている。

改善目標B(to Be)

必修科目群の受講生の授業参加情報(欠席情報)を収集し授業開始後4w以内に受講生の所属系に報告する。

1. Plan (BpsM)

2. 改善行動実施Do

個別行動計画pの実施結果の記録r:
記録者を明示。
計画通りに
- 実施できたc / 実施できなかったn
- 予想外に生じた事象u

3. 評価 Check

個別行動計画pの実施結果の記録rの評価e
評価者、評価基準を明示。
(good/bad, S/A/B/C/F)

・改善目標Bの達成度E:
評価者: 担当WG

・達成できなかった部分B-E:
評価者: 担当WG

改善行動計画ps(plans to do)

個別行動計画間の関連(順序性、並列性等)

p1→p2→p3

個別行動計画

p1
担当WGが、必修科目群の開始2w前までに授業担当に受講生の授業開始後3wまでの授業参加情報(欠席情報)の収集と報告を指示。

p2
授業担当が、授業開始後3wまでの授業参加情報を収集し担当WGに報告。

p3
担当WGが、授業参加情報を集計し欠席が目立つ受講生の情報を所属系に報告する。

参考:
・東工大立志プロジェクト:
100番台1Q
・教養卒論:
300番台3Q,4Q

個別行動計画pの実施結果の記録r

r1: 担当WG
c: n: u:

r2: 担当WG
c: n: u:

r3: 担当WG
c: n: u:

個別行動計画pの実施結果の記録rの評価e

評価者: 担当WG
評価基準:
期限内の実施

c:

n:

u:

その他

4. 改善活動の改善Action

・改善目標Bの改善案B'
案作成者: 担当WG

・個別行動計画の改善案
案作成者: 担当WG

現実A(As Is)

必修科目群の受講生の授業参加情報が所属系に報告されていない。学修支援が十分に拡充されていない。

改善活動管理者M(Manager) : 部局

目的W(Why?) : 改善活動全体の管理(中期目標【6-3】)

改善活動名N(Name) : 改善活動全体の管理

教育の内容改善、教育の量増加(学生数、コンテンツ)、教育の効率向上(費用、時間、人員等削減)、等

0. Situation (WAGoN)

理想Go(Goal)

部局内の改善活動全体が適切に管理されている。部局内の改善活動全体が効率的である。

改善目標B(to Be)

部局内の改善活動全体の進捗が把握されていて、内容が部局内に周知されている。

1. Plan (BpsM)

2. 改善行動実施Do

個別行動計画pの実施結果の記録r:
記録者を明示。
計画通りに
- 実施できたc / 実施できなかったn
- 予想外に生じた事象u

3. 評価
Check

個別行動計画pの実施結果の記録rの評価e
評価者、評価基準を明示。
(good/bad, S/A/B/C/F)

・改善目標Bの達成度E:
評価者: 部局

・達成できなかった部分B-E:
評価者: 部局

改善行動計画ps(plans to do)

個別行動計画間の関連(順序性、並列性等)

P1→p2→p3

個別行動計画

p1
部局(カリキュラム実施委員会)が、各Qのはじめに各部会・各WGに改善活動の実施を指示。

p2
各部会・各WGが、各Q終了後3w以内に改善活動の進捗を報告。

p3
部局(カリキュラム実施委員会)が、各Q終了後5w以内に各部会・各WGからの報告を教授会に報告。

個別行動計画pの実施結果の記録r

r1: 部局(カリキュラム実施委員会)
c: n: u:

r2: 部局(カリキュラム実施委員会)
c: n: u:

r3: 部局(カリキュラム実施委員会)
c: n: u:

個別行動計画pの実施結果の記録rの評価e

評価者: 部局(カリキュラム実施委員会)
評価基準:
期限内の実施

4. 改善活動の
改善Action

・改善目標Bの改善案B':
案作成者: 部局

・個別行動計画の改善案:
案作成者: 部局

現実A(As Is)

部局内の改善活動全体が適切に管理されていない。部局内の改善活動全体が効率的でない。